

鹿兒島県本土産ムヨウラン属 (*Lecanorchis* Blume) 植物の記録

丸野勝敏

〒 891-0113 鹿兒島市東谷山 1-51-8

## ■ はじめに

鹿兒島県の離島を除く本土産ムヨウラン属植物には、ウスギムヨウラン *Lecanorchis kiusiana* Tuyama, ムヨウラン *Lecanorchis japonica* Blume, クロムヨウラン *Lecanorchis nigricans* Honda の3種の報告がある(初島, 2004)。3種の生育地は限られていて、ムヨウランは霧島山と稲尾岳, クロムヨウランは稲尾岳, ウスギムヨウランは大口である(初島, 2004)。生育地が少ない原因として、花は小形で花期が短いことや、茎が落葉の色に似て気づきにくいことなどが考えられる。また、図鑑等の記述がまちまちであるのも一因と考えられる。例えば、クロムヨウランの記述を見ると、村田(1979)は6月頃咲き唇弁は分裂しない、里見(1982)は6月から7月に咲き3裂する、橋本(1990)は7月中旬から9月中旬に咲き3裂しないとしている。また、橋本(1990)は、唇弁が3裂するムヨウラン類をムヨウラン節 (Sect. *Lecanorchis*), 唇弁が3裂しないムヨウラン類をクロムヨウラン節 (Sect. *Nigricantes*) としている。

本報告では鹿兒島県本土に産するムヨウラン属植物3種の花の形態, 生育環境, 分布等についての調査の結果を述べるものである。なお, 学名, 和名の取り扱いは芹沢(2005)に従った。

## ■ 観察結果

1. ウスギムヨウラン *Lecanorchis kiusiana* Tuyama

花期は5月下旬から6月上旬で、花は3~5個付き半開する(図1)。花被片の長さは12~14

mm, 唇弁は3裂し太い紫色の毛が目立つ(図2-3)。花茎は10~20 cm, 花期の花茎は薄紫色で(図4), 果実期に黒くなる(図5)。

2. ムヨウラン *Lecanorchis japonica* Blume

開花期は5月中旬から6月中旬で、花は5~10個付き(図6), 斜開(図7)または平開(図8)する。花被片は16~25 mm, 唇弁は3裂し黄色の毛がある。花茎は20~40 cm, 黄みを帯びた褐色だが、果実期になると黒くなる。根は深い所あることが多い。

3. クロムヨウラン *Lecanorchis nigricans* Honda

花期は7月下旬~8月上旬で、花は5~10個上部に集まって付き(図9), 唇弁は3裂せず先端だけに紫色の毛がる(図10)。花茎は黒く20~30 cm, 枝分かれする。果実は花茎に対して広い角度で付き, 花茎・果実ともに黒く光沢がある(図11)。

## ■ 生育環境

3種の生育地のほとんどが大木のシイ林で、稀にマテバシイ林で見られ, シイ, マテバシイから2 m以内に大方が成育していた(図12)。

ウスギムヨウランの根は毛が多く, 腐葉土の浅い所に水平に広がっていて, 観察がしやすかった(図13-14)。一方, ムヨウランの根は深い所にあつて, 根を観察することが難しいことが多かった。

## ■ まとめ

3種の共通した形質として, 葉は退化して鱗片状, 果実期は花茎・果実ともに黒色, 副萼があるということが上げられる。3種は県本土に広く分

Maruno, K. 2009. Records of species of *Lecanorchis* from the mainland Kagoshima, Japan. *Nature of Kagoshima* 36: 37-41.

☐ 1-51-8 Higashi-taniyama, Kagoshima 891-0113, Japan (e-mail: bhh000368641@sat.bbq.jp).



図1. ウスギムヨウランの花（正面）. 金峰山, 2007.06.05.



図4. ウスギムヨウランの生育個体. 金峰山, 2007.06.05.



図2. ウスギムヨウランの唇弁（花弁1枚を取り除く）. 金峰山, 2007.06.18. A, 唇弁; B, 副萼; →, 側裂片.



図5. ウスギムヨウランの果実期. 大川原峡, 2005.08.27.

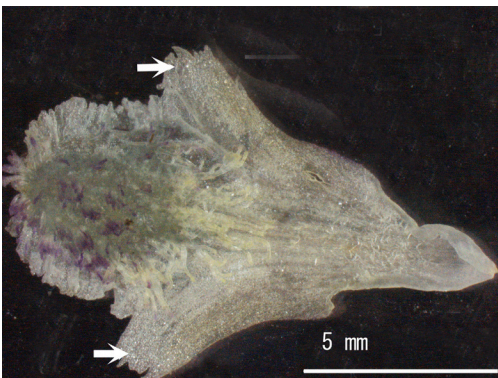


図3. ウスギムヨウランの唇弁（花から取り出し広げた）. 五里国有林, 2009.05.30. →, 側裂片.



図 6. ムヨウランの生育個体. 溝辺. 2006.05.20.



図 8. ムヨウランの花 (平開). 鶴田. 2007.05.23.



図 7. ムヨウランの花 (斜開). 溝辺. 2007.05.22.



図 9. クロムヨウランの生育個体. 串木野金山. 2005.08.06.



図 10. クロムヨウランの花（斜め上から）. 串木野金山. 2005.08.06.



図 12. クロムヨウランの生育環境. 鎌塚国有林. 2005.07.29. →, スダジイの幹.

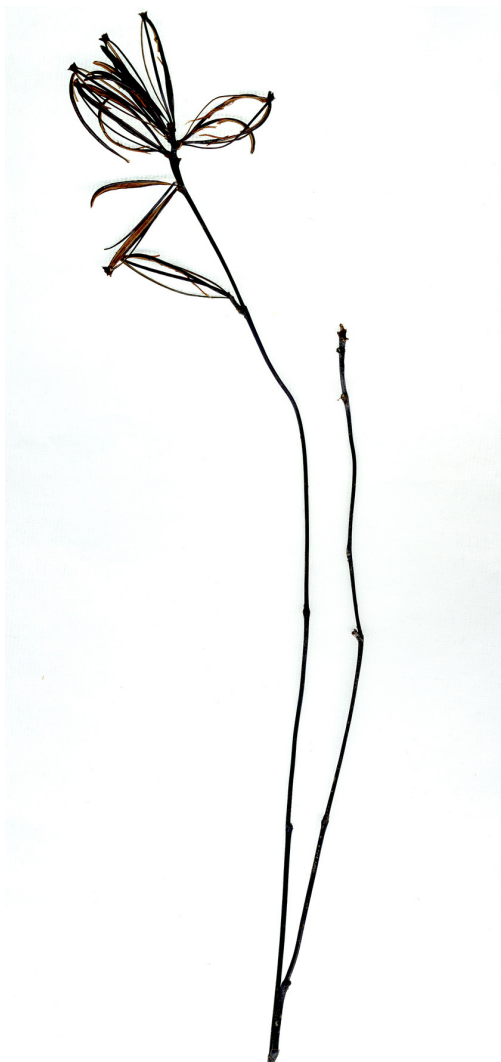


図 11. クロムヨウランの花茎と果実. 県民の森. 2009.11.29.

布し、生育地はウスギムヨウランが最も多く、クロムヨウランが最も少なかった。

開花期は、ウスギムヨウランが5月下旬から6月上旬、ムヨウランが5月中旬から6月中旬、クロムヨウランが7月下旬から8月上旬であった。

果実の付き方は、ウスギムヨウランは花茎と狭い角度で上向き、クロムヨウランは花茎と広い角度で横向きであった。

発生環境は、シイ林を中心に稀にマテバシイ林で、3種ともやや乾燥した場所に多く見られた。また、2種が混在している所（鎌塚国有林ではクロムヨウランとウスギムヨウラン、栗野岳ではムヨウランとウスギムヨウラン）があった。

ムヨウランは花の大きさ・色、の花茎の長さ・色等の変異が大きく、今後更に詳しく種内変異を調べることが必要である。

■ 証拠標本

ウスギムヨウラン

伊佐市山野五女木 500 m alt. (丸野勝敏 29976, Jun. 10, 2005, fls.); さつま町五里国有林 250 m alt.



図 13. ウスギムヨウランの根. 五里国宥林. 2009.05.30.

(丸野勝敏 29991, May 30, 2009, fls.); 日置市下神殿 160 m alt. (丸野勝敏 29988, Jul. 22, 2008, fruits); さつま川内市入来鷹ノ子岳 300 m alt. (西志隆 s.n., Jun. 1, 2008, fls.); 鹿児島市八重山 650 m alt. (丸野勝敏 29981, Nov. 16, 2005, fruits); 南さつま市金峰山 600 m alt. (丸野勝敏 29984, Jun. 5, 2007, fls.); 南九州市熊ヶ岳 580 m alt. (丸野勝敏 29980, Nov. 12, 2005, fruits); 南さつま市野間岳 550 m alt. (丸野勝敏 29970, May 28, 2005, fls.); 鹿児島市烏帽子岳 520 m alt. (丸野勝敏 29971, May 31, 2005, fls.); 南九州市鎌塚国宥林 440 m alt. (丸野勝敏 29972, May 31, 2005, fls.); 霧島市霧島 500 m alt. (丸野勝敏 29982, Jun. 6, 2006, fls.); 湧水町栗野岳 560 m alt. (丸野勝敏 29973, Jun. 1, 2005, fls.); 曾於市財部町大川原峽 300 m alt. (丸野勝敏 29979, Aug. 27, 2005, fruits); 鹿屋市高隈山白滝 600 m alt. (丸野勝敏 29992, Aug. 8, 2009, fruits).

#### ムヨウラン

さつま町紫尾山 600 m alt. (丸野勝敏 29975, Jun. 10, 2005, fls.); 霧島市溝辺町宮川内 360 m alt. (丸野勝敏 29969, May 20, 2005, fls.); さつま町五里国宥林 200 m alt. (丸野勝敏 29983, May 23, 2007, fls.); 湧水町栗野岳 550 m alt. (丸野勝敏

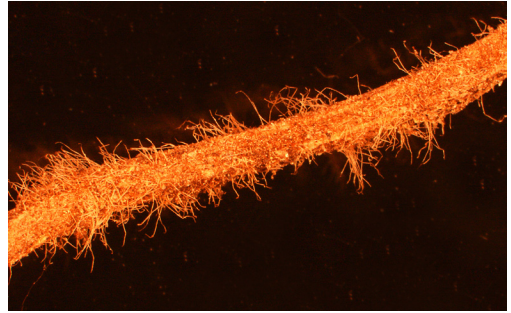


図 14. ウスギムヨウランの根の一部拡大. 日置下神殿. 2008.07.22.

29974, Jun. 1, 2005, fls.); 南大隅町木場岳 700 m alt. (丸野勝敏 29985, Jun. 11, 2007, fls.); 錦江町田代川原 380 m alt. (丸野勝敏 29990, May 31, 2008, fls.); 南大隅町辺塚 620 m alt. (丸野勝敏 29989, May 31, 2008, fls.).

#### クロムヨウラン

いちき串木野市芹ヶ野 180 m alt. (丸野勝敏 29978, Aug. 6, 2005, fls.); 南九州市鎌塚国宥林 440 m alt. (丸野勝敏 29977, Jul. 29, 2005, fls.); 肝付町高山二又 400 m alt. (丸野勝敏 29987, Jun. 1, 2008, fruits); 霧島市溝辺町牟 500 m alt. (西志隆 s.n., Nov. 29, 2009, fruits).

#### 謝辞

この報告にあたり、貴重なご意見をいただくとともに、写真撮影用機器の利用を許されました鹿児島大学農学部馬田英隆先生に感謝いたします。

#### 引用文献

- 橋本 保. 1990. A Taxonomic Review of the Japanese *Lecanorchis*. 筑波実験植物園報, 9: 1-40.
- 初島住彦. 2004. 九州植物目録. 鹿児島大学総合研究博物館研究報告, (11): 1-343.
- 村田 源. 1979. ラン科, p. 28. 北村四郎・村田源・小山鐵夫 (編). 原色日本植物図鑑木本編 [III]. 保育社, 大阪.
- 里見信生. 1999. ラン科, pp. 205-206. 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫 (編), 日本の野生植物, 草本 I. 平凡社, 東京.
- 芹沢俊介. 2005. 愛知県のムヨウラン類. 分類, 5: 33-38.